

令和6年2月26日

保護者各位  
生徒の皆さんへ

日本大学中学校  
校長 田村 隆

### 令和5年度自己点検・評価の実施結果について

時下ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。日頃から本校の教育活動及び学校運営にご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。

さて、本校において、毎年度、教育活動等の学校運営の状況について、自らで点検・評価を行い、魅力ある学校づくりのため、改善・改革に取り組むことを目的に自己点検・評価を実施しています。自己点検・評価では、「組織的な自己点検・評価」、「教員個人による自己点検・評価」及び「生徒による授業評価」を実施しています。

「生徒による授業評価アンケート」については、全校生徒の協力を得て実施しており、令和5年度は令和5年10月に実施いたしました。このアンケートは、「授業改善のための問題発見の機会」、「教員が自らの努力の成果を確認する機会」を設けることにより、生徒の視点や理解に合わせた授業となるよう、更なる改善を図ることを目的としています。

また、自由記述形式の「学習活動及び学校生活全般についての意見や要望」の欄を設け、生徒からの具体的な意見や要望にも対応できるよう構成されております。

このたび、「生徒による授業評価アンケート」結果を含む令和5年度自己点検・評価結果について、次のとおり取りまとめましたので、生徒の皆さん及び保護者の皆様にお知らせいたします。本校においては、この結果を基により一層の教育力向上を図ってまいります。

今後ともご理解ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 1 自己点検・評価概要

平成29年度に本校が策定した教育スローガン“*Aiming high!*”並びにサブスローガン“*SHINKA!*”に基づき、全ての教職員、生徒及び保護者、さらには、受験者とその保護者等に至るまで、機会あるごとにあらゆる手段を通じて目指す生徒像などを明確に示し、その浸透に努めています。

令和2年度末に策定した新たな本校の中長期計画となる「日本大学高等学校・中学校基本計画（令和3年度～令和13年度）」を組織的かつ体系的に推進し、絶えず検証しながら、具体的な施策に繋げていくものとし、“*Road to 100th*”というキャッチフレーズのもと、広く学内外に周知して、本校が目指す方向性などについて指し示すとともに、着実な実行に向けた公約という認識で推進しています。令和5年度が同計画の策定から3年目にあたることから、各項目についてリフレクションするとともに、次の3年間に向けた検討課題を洗い出し、各部署において精査した結果内容を全教職員で共有し、共通理解に努めています。

「日本大学高等学校・中学校創設 100 周年記念行事プロジェクト」については、本校創設 100 周年に向けたマイルストーンを設定し、計画的かつ具体的に進めることができるよう努めています。特に、新たなキャンパスの構想に関しては、より具体的な検討を進めていく重要な年度として位置づけ、その過程においては、“生徒ファースト”であることを常に念頭に置き、生徒が主体的に学び体験することのできる未来型の施設設備等を構想できるように取り組んでいます。

## 2 「生徒による授業評価アンケート」

### ① 生徒自身に係る質問

#### (1) 令和 5 年度結果

##### 〈A〉授業中（授業自体に関する設問）

①【参加度】「自ら積極的に授業に参加している」や「授業内容をノートやタブレット等で工夫してとり、復習に役立てている」などに関する設問では、全体で約 85% の生徒が「あてはまる（以下 A）」又は「大体あてはまる（以下 B）」と回答しており、多くの生徒が真面目に授業に取り組んでいる様子が見受けられます。

②【疑問点】「疑問点は自ら調べたり、先生に質問している」や【目標】「授業の目標や計画を十分に理解している」に関しては、「あまりあてはまらない（以下 C）」又は「あてはまらない（以下 D）」と回答した生徒はそれぞれ 31.3% と 17.7% となり、昨年度より改善傾向にあります。分からないことや疑問に思ったことをそのままにせず、積極的に教員や友人に質問することが最も大切です。

##### 〈B〉心構え・姿勢（予習・復習等に関する設問）

①【授業準備】「予習など必要な準備をして授業に臨んでいる」については 55.7% の生徒が A 又は B と回答しており、また、②【定着努力】「学んだことを忘れないように復習している」については 76.9% の生徒が A 又は B と回答しています。

少しずつ改善傾向にありますが、家庭学習の習慣がまだまだ定着していない生徒も見られます。まずは一日の授業を振り返ることが基礎学力の定着につながります。復習がいかに重要であるかを理解し、家庭での学習習慣を定着させましょう。

「意欲」と「習慣」が学力向上の原動力です。

##### 〈C〉生活・課外（学校生活や友人との交友に関する設問）

①【学校生活】「校則やマナーを守って生活している」については 95.2% が A 又は B と回答しており、②【学校生活】「学業と部活が両立出来ている」についても 84.2% の生徒が A 又は B と回答しています。明るく楽しい学校生活を過ごしている生徒たちの様子が伺えます。また、③【コミュニケーション】「友人関係がうまくいっている」については 94.7% が A 又は B と回答しております。

しかし、悩みを抱えている生徒も少なからずいるようです。まずは、教員や友人、保護者に相談できる環境づくりを継続して行ってまいります。また、メールや SNS、インターネットを利用したコミュニケーションツールの利用は、相手の気持ちへの配慮を欠くおそれがあります。家庭と連携し、今後も継続的に指導してまいります。④【コミュニケーション】「学校生活が充実している」については 93.4% が A 又は B と回答しており、おおむね友人関係は良好のようです。

## ② 授業に対する評価

### (1) 令和5年度結果

#### 〈A〉プレゼンテーション能力に関する設問

①【説明】「授業の説明はわかりやすい」(92.0%)、②【話し方】「話し方は明瞭で聞き取りやすい」(92.2%)、③【板書・資料】「板書や資料は見やすく工夫されている」(91.4%)、④【進度】「年間の計画どおりに授業が進んでいる」(94.5%)の4つの設問において、A又はBと回答した者がそれぞれ91%以上と良好な評価となっています。しかし、この結果に満足することなくより充実した授業を目指してまいります。

#### 〈B〉コミュニケーション能力の設問

①【関係】「質問への対応がわかりやすい」(91.4%)、②【熱意】「授業に対する熱意が感じられる」(92.8%)の2つの設問では、生徒と教員間の円滑な交流と相互の信頼関係の構築度の指標となるものです。それぞれA又はBと回答した生徒が91%以上であり、良好な評価となっています。今後も熱意のある分かりやすい授業を継続できるよう、更なる向上を目指して努力してまいります。

#### 〈C〉授業の効果に関する設問

①【授業の理解度】「小テストや宿題でより授業が理解できた」については、A又はBと回答した生徒が88.9%と回答しています。

②【効果】「この授業を受けて学力や技能の向上を実感している」についても、88.9%がA又はBと回答しています。

今後、さらに、課題の内容を工夫し、生徒たちの興味や好奇心を生み出せるよう、「主体的・対話的で深い学び」の視点から学習を働きかけ、生徒が「楽しい・わかった」と実感できるような授業を目指して教材研究を行い、質の高い授業の展開に努めてまいります。

## 3 学習活動及び学校生活全般についての意見や要望

アンケート用紙裏面の意見や要望欄には、様々な意見や要望がありました。主な記述は、次のとおりです。

- ・質問に丁寧に答えてくれる先生の授業は理解が深まる。
- ・ロイロノートで個々の先生へ質問でき、アドバイスがもらえるのはとても良い。
- ・希望生徒への補習・講習は、今後も継続してほしい。
- ・教室のエアコンの設備を良くしてもらいたい。
- ・スクールバスの本数を増やしてもらいたい。

これらの記述内容についても検討し、生徒一人ひとりの個性や能力を伸ばす教育を推進するため、一層の改革を進めてまいります。

令和6年度におきましても、引き続きご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

以 上